



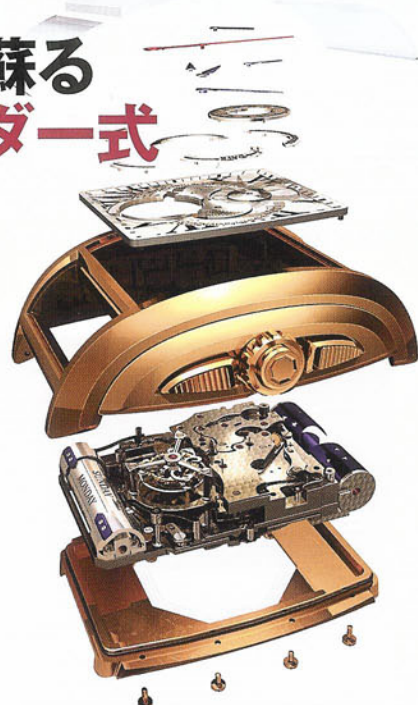
左から、ロジェ・デュブイ、ピーター・スピーク・マリソ、クリストフ・クラレと、独立系時計師3人が集まって誕生したブランド、メートル・デュタン。3年前からプロジェクトを開始し、今年お披露目となった。

## MAITRES du TEMPS

メートル・ドゥ・タン

# 3人よれば 文殊の知恵で蘇る 郷愁の「シリンダー式 カレンダー」

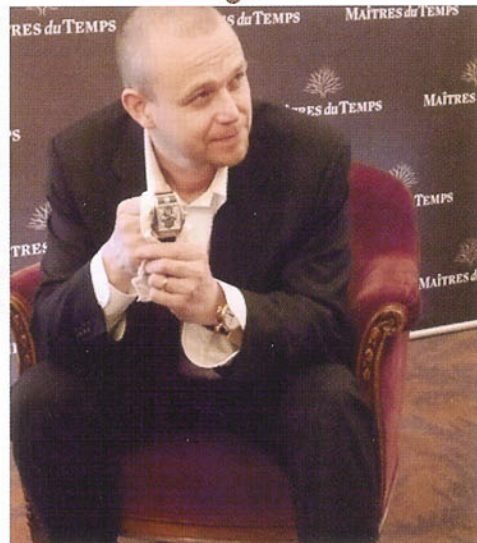
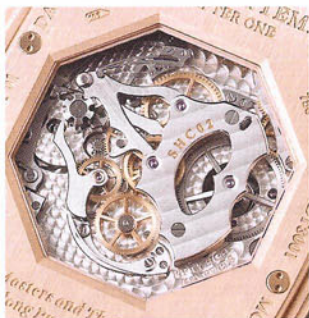
上下にシリンダー式のカレンダーを備えた複雑時計が、チャプター・ワン。上に月齢表示付きのムーンフェイズ、下に曜日表示を備える。加えてレトログランド式カレンダーにワンプッシュクロノグラフ、GMTにトゥールビヨンを重ねているが、動くどころか、優れた精度を実現した。その鍵は、ムーブメント。信頼性の高いクリストフ・クラレ製のトゥールビヨンエポッシュを大幅に改良して搭載している。また上下のシリンダー式カレンダーには、肉抜きした極薄のアルミチューブを使用。極めて軽いため、精度への影響はほとんどない。



### チャプター・ワン

3人の独立時計師が成し遂げたかつてない複雑時計

「時の支配者」という名称を持つ時計。機構満載だが、決して奇抜に见えないのは100枚以上のデザインスケッチを経て商品化されたため。複雑な形状のケースは、実に104個の部品から構成される。手巻き (Cal. SHC02)。18KRGケース。価格未定。限定33本。発売時期未定。©日本シイバヘグナー ☎03-5441-4515



### ピーター・スピーク・マリソ 独立時計師

1968年生まれ。WOSTEP卒業後、宝飾メーカーやアンティークショップ勤務を経て、'96年、ルノー・エ・パビに入社。2000年に独立し、自身のブランドを創業する。イギリスの古典を範にとりつつも、独自のデザインを得意とする。近年はユニークピースの製作にも注力。異素材や蒔絵などを多用し、新しい境地を拓きつつある。

### 回転ドラムに込めた 古典への郷愁

設計者のひとりであるピーター・スピーク・マリソが「ケースの上下についていた回転ドラムを見てくれ」という。彼曰く「これは父の持っていたクロックに範を取った」とのこと。

確かに1950年代、60年代のクロックにはこのようなシリンダー式カレンダーが付いていた。しかし手で回す必要があるため、決して便利とはいえなかった。ところが彼曰く、このカレンダーは自動で切り替わるという。

重そうだけどちゃんと動くの？と聞いたところ、彼はドラムの部品を見せてくれた。「羽のように軽いだらう？硬化処理した極薄のアルミ製なんだ。クラレの技術がなければ、実現できなかったらうね」。

3人寄れば文殊の知恵。少年の頃の思い出が再び形となったのは、天才時計師たちの見事なコラボレーションがあつてこそ、だったのである。

ここが  
古典

ドゥ グリソゴノ

## de GRISOGONO

機械式デジタルを支える超絶メカニズム

上にアナログ時計を、下にデジタル時計を備えたアナデジウォッチが、メカニコdGだ。アナログ表示用の動力を分岐し、下のデジタル表示を駆動する。一見シンプルだが、文字盤の下には、なんとコンスタントフォースを応用した機構と、永久カレンダーを思わせる遊星歯車を備えており、瞬時にデジタル表示の切り替えを行う。



メカニコdGのムーブメント側。一見シンプルだが、部品点数はなんと651個。デジタル表示は、23本のカムとバーで表示される。常識破りのメカニズムだが、採用された手法はいずれもオーソドックスである。



### メカニコ dG

世界初の機械式アナデジウォッチ。輪列の力を蓄える機構には、コンスタントフォースを応用したメカニズムを採用。蓄えたトルクを一気にリリースすることで、デジタル表示の瞬時切り替えを実現した。手巻き (Cal. DG042)。18KRGケース。ラバーベルト。ケース径：56mm×48mm。4224万1500円。©ドゥ グリソゴノ ジャパン ☎03-6212-8100